

年末大掃除を迎えて～

蚊の発生源をなくすには

～シーズンオフにできること～

デング熱は蚊が媒介する感染症です。

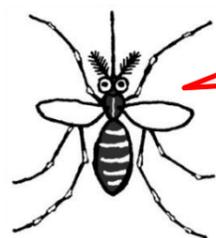
平成26年8月末に約70年ぶりにデング熱の国内での感染が確認され、160名以上の患者が報告されました。

平成27年は、国内での感染の報告はありませんでしたが、今後も注意が必要です。

デング熱を媒介するヒトスジシマカの活動シーズンは5月中旬～10月下旬です。

ヒトスジシマカは、秋になり気温が下がると成虫は死んでしましますが、卵の状態です。

年末大掃除の時から、家の周りの発生源をなくすように心がけることにより、来年の蚊の発生を減らすことができます。



蚊はデング熱などの感染症を媒介します！

不要な水溜りをなくす

例えば・・・

・落ち葉が溜まって、水溜まりにならないように定期的に清掃をする

・タイヤにはビニールシート等を被せる
・ビニールシート等のたるみをなくす
・不要なタイヤは放置しない

侵入防止対策

・穴のあいた網戸は穴をふさぐ

身の回りで出来ることは？

対策は継続することが大切！

対策のポイントは

◎発生源となる不要な水溜まりをなくすことです。

- ・幼虫（ボウフラ）が育つ水溜まりをなくすよう、みなさんの家庭で点検をしましょう。
- ・今年、屋外で雨ざらしになっていた容器などには、卵が残っている可能性があります。今のうちに片付けましょう。

◎侵入防止

- ・網戸の点検をしましょう。
- ・穴のあいた網戸は、穴をふさいだり、新しく張り替えましょう。



・整理整頓して水が溜まる場所をなくす

・鉢植えの受け皿の水はこまめに捨てる

・落ち葉が溜まって、水溜まりにならないように定期的に清掃をする

年末大掃除を迎えて～

セアカゴケグモにご注意

～寒い冬はどうしているの？～



セアカゴケグモのメスは
毒を持っています！

セアカゴケグモのメスは毒を持っており、かまれるとまれに重症化することがあります。

原産地はオーストラリアで、もともと日本にはいませんでした。

国内では、平成7年に大阪府内で初めて確認されて以後、沖縄県から北海道まで41都道府県で確認されています。(平成27年9月10日現在)

平成26年に岐阜市、各務原市、大垣市で相次いで生息が確認され、岐阜市内で定着しているおそれがあります。日本での繁殖期は真夏で、咬傷例は、おもに6月から10月に報告されています。

寒さによりクモの活動は鈍りますが、年末の大掃除など、屋外での作業には注意しましょう。

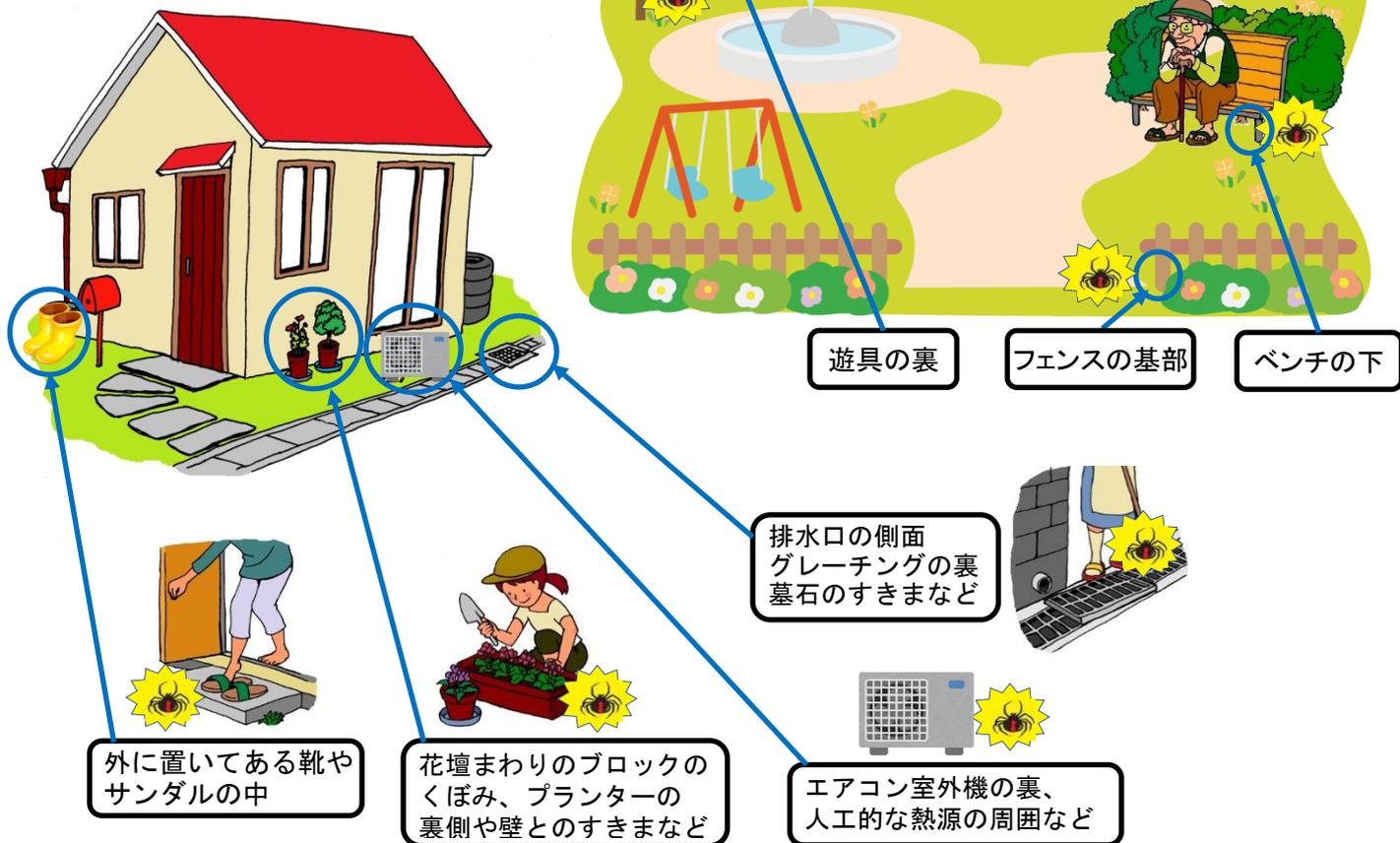
身近な生息場所

きけん!



屋外の物陰になる、すきまを好みます。

◎例えば・・・



冬はどうしているの？

暖かくなると活動を始めますが、寒い時はじっとしています。

卵のう（卵が入った袋）の状態越冬するものもあります。(卵のうについては右ページ参照)

見つけたときは？

- さわらない（素手で直接さわるのはやめましょう）（例）軍手、棒や割りばしの使用。
- 駆除する（例）卵のうは巣ごとからめ取る。市販の殺虫剤の使用。靴で踏みつぶす。



かまれたときの症状は？

ほとんどが軽傷で済みますが、まれに重症化することもあります！

- 針で刺されたような痛みを感じます。
- かまれた箇所のまわりが腫れて赤くなり、痛みがしだいに全身に広がります。
- 多量の汗をかいたり、はき気を引き起こすことがあります。
- 通常は数時間から数日で症状は軽減します。
- とくに脱力、頭痛、筋肉痛、不眠などの全身症状が数週間継続することがあります。

もしかまれたら？

- かまれた箇所をすぐに水や温水で洗いましょう。
- できるだけ早く医療機関を受診してください。かまれたクモを殺して持参されますと適切な治療につながります。



予防方法は？

- 生息しそうな場所に注意し、クモが巣を作らないように定期的に掃除しましょう。
- 清掃など屋外での作業のときは軍手などを着用しましょう。

セアカゴケグモってどんなクモ？

- メスだけが毒を持っています。
- 攻撃性はありませんが、さわるとかまれることがあります。

◎メスの特徴（右写真）

- ・ 体長7～10mm（足を除く）。
- ・ 光沢のある黒色で、背中中央に赤色の縦すじ模様があり、腹面には砂時計型の赤い模様が見られます。

◎巣

- ・ 一般的な放射線状ではなく不規則で複雑な網状をしています。
- ・ 地面近くで落ち葉などがからまっている状態がよく見られます。

◎卵のう（卵が入った袋）（右写真）

- ・ 直径10～15mmの乳白色の球形で、中に10～200個の卵があります。

写真提供：堺市生活衛生センター

